

令和7年度 大阪府立豊中支援学校 第3回 学校運営協議会記録

- 1、日時：令和8年2月4日（水）10：00－12：10
- 2、場所：本校調理室
- 3、構成：＜ 委員 ＞ 5名
 ＜事務局＞ 校長、准校長、教頭2名、事務長、首席2名、教諭1名
 ＜ 傍聴 ＞ なし
- 4、内容

10:00	第3回協議会次第説明 校長挨拶	(事務局) (校 長)
10:05	報告及び協議、質疑応答 ・学校教育自己診断、学校生活アンケートの集計結果について ・学校経営計画に関する進捗報告 「就労支援アドバイザーの活用状況の報告」 ・令和7年度 学校経営計画及び学校評価 (案) ・令和8年度 学校経営計画(案)	(委員長) (首 席) (進路室) (校 長) (准校長)
12:00	事務連絡	(事務局)

予定していた「実践交流会でのキャリア教育の取組の報告」について、発表者が欠席のため、後日資料配付にて報告をする。

上記のとおり報告等を行い、各委員より次のような意見をいただいた。

学校教育自己診断、学校生活アンケートの集計結果について

＜委員より＞

- ・集計結果の数値に囚われず、原因をしっかりと考察できている。また今後の取組みも検討され示されている。
- ・ICTの活動が保護者へ浸透していない点について、普段の取組みを見る・知る機会が参観くらいしかない。授業の様子を学年だよりで知らせてほしい。または、連絡帳が一番のツールなので身近なもので教えてもらえるとありがたい。知れると安心もできる。
- ・校内掲示物は季節感が出ていて良い。また作品等でにぎやかになっており雰囲気は明るくなったと感じている。
- ・学校の取組みは評価している。「何の為にしているのか」活動のねらいについての解説が乏しい。発信の方法や伝わる工夫が必要。
- ・考察は保護者に伝わっているのか？せっかくの考察を伝えるべきだ。ホームページで公開するだけではなく、みんなが見る発信方法の工夫を。
- ・学校がどんどん良くなっている。
- ・教職員の回答項目について、人権意識は十分ある。
- ・数値の低い項目の一つである、災害対策に関しては、個人備蓄品の拡充を約10年ほど前から続けていただいている。設備面の問題が一因となっているのか。情報交換に関しては、機会がつけられているが教員の意識がもっているのか？という点も考えられる。
- ・教員個人のコメントはとっているのか？本当はそこが知りたいはず。
- ・教職員の回答率が100%にならないのが気になる。大きい組織なのでそろわないこともあるだろうが、全員で取り組んでいくべきである。現状が見えていない、関心の高さが数字に表れていると感じる。同じ方向を向い

てやるべきことをできる組織であってほしい。アンケートの取り方の工夫も要検討。

- ・児童生徒の評点について、項目によって数字が違うのは、質問の仕方や子どもの特性もあるように感じる。家庭で聞く話とは違う内容を回答していることも考えられる。数字が子どもの本音と結び付かないと思う。女子生徒が少なく友だちになりたいと思っても叶わないなど、求めている交流ができる仲間は少ない。学年を超えたり、交流を交えたりすると、交流の広がりももてるようになるのではないかな。
- ・子どもたちの思いを引き出すには、豊フェスやイベントの後にアンケートを取るなどの工夫をしてみてもいい。回答も変わってくる。後日思い出して回答するのは難しいのかもしれない。
- ・「学校に行くのが楽しいですか」の項目について、回答が65%という結果が寂しい。しかし代表委員会のアンケートから、みんなが学校を楽しんでいることは伝わってくる。
- ・生徒の回収率も100%までには10%程足りない。学校に通えていない子どもたちの回答（意見）も聞いた方がよいと思う。より実態に即したアンケート内容になるのではないかな。

学校経営計画に関する進捗報告

◎就労支援アドバイザーの活用状況の報告の取組について

府立支援学校の就労支援に関する取組みで昨年度から実施。各学校の実情に応じて就労支援アドバイザーを使っていけるものである。

<学校より>

- ・例年卒業生に講話を依頼していたものを置き換えた取組みのため、対象を高等部2,3年生のコース別で実施した。
- ・企業側の事情により実施のタイミングがこちらの都合に合わない。
- ・府教委から指定されるため、学校から企業を指定できない。本当は豊中市の企業に来ていただきたい。
- ・具体的な仕事内容の話があり、企業や就労に興味を示す生徒が多かった。また就職意欲があがった回答も多かった。
- ・手続きなどの都合で実施の時期を早くできない。今後は対象学年や保護者にも聞いてもらうなど検討していく。

<委員より>

- ・企業の話聞く機会はなかなかないので、良い機会となる。実施の時期は高等部3年生では確かに遅い。
- ・始まったばかりの取組みである。今後、学校のニーズが反映されていくと良い。
- ・特例子会社や企業を見学して知る機会がコロナでなくなった。令和8年度は保護者に聴講してもらうのも良い。
- ・子どもの将来の進路に向けて「今何が必要か」を逆算で考えているが、どう動いたらいいのか、情報集収にしてもどこから手を付けたらいいのかわからず不安である。場を設けてほしい。PTAとして開催するのも必要。
- ・進路全体として考えて、保護者のニーズに応えていただきたい。
- ・卒業後は、人生の長い道のりの大事な入口となるので、学校でサポートしながら取り組めたら良い。

令和8年度 学校経営計画（案）について

<学校より>

- ・「安全安心な学校づくり」より食物アレルギー事故の未然防止を追加した。
- ・新校開校に関連する情報の提供について、子ども・保護者・地域・関係機関に共有する必要がある。
- ・SWPBS (School-Wide Positive Behavior Support: 学校規模ポジティブ行動支援) について、子どもをサポートする、子どものよい行動を引き出すという点について、学校全体で取り組んでいきたい。
- ・「新校開校を見据えた全校的なキャリア教育実践の推進」について、本校のキャリア教育実践の柱の一つとなるような活動を立ち上げたい。
- ・高等部の学校経営計画については、生徒が地域への関わりを深める活動や取組みを行い、本校の生徒のことを地域の人に理解してもらう機会としたい。

<委員より>

- ・子どもだけではなく親も地域から孤立しがち。知的障がいを知ってもらうために参加できることをしていければと思っている。学校でも機会を設けてもらえるのは足がかりになって良い。
- ・行事の教育的な意味を発信していく必要がある。「なぜそれをしているのか」ねらいや目的を伝えることが大切である。地域の学校でも自立活動の意味がようやく浸透し、教員の意識にも変化がでてきた。
- ・「自己選択・自己決定」とよく言われている。支援はするが選択し決定していく力はぜひ学校で身につけてほしい。
- ・狭隘化などの課題から、予算取りは頑張っている。水泳授業を含めて安全に取り組める環境づくりをお願いしたい。
- ・福祉・労働を地域へ広げていくことはとても良い。地域とともに過ごす共生社会の実現に向けて取り組めたら良い。
- ・計画案を読んで、ますます期待している。

全体を振り返っての感想・意見

<委員より>

- ・子どもが輝くためには、教員や保護者も輝いていくことが大事である。限られた難しい環境の中で、引き続き努力をしていただいて、より良い豊中支援学校にしていかれることを応援している。